

2022年1月

第136号

ぱれっと



㈱北日本ベストサポート

TEL 018-883-1888



「年頭に当たって」

新年あけましておめでとうございます。

昨年は前年に引き続きコロナ禍に翻弄された1年となりました。

緊急事態宣言が首都圏や大阪・沖縄などにも出されたものの、第5波の感染が容赦なく襲い掛かり8月には全国の新規感染者が一日2万人を超える日もあり、医療崩壊の危機に直面し、9月には累計で150万人にも達しました。

世界的にも8月には感染者数がインド由来の変異ウイルス「デルタ株」が流行に拍車をかけ感染者数が2億人を超える事態となりました。

こうした中、7月23日から東京五輪が、引き続きパラリンピックが無観客で開催され、日本選手はオリンピックで史上最高の58個のメダルを獲得、パラリンピックでも史上2番目の51個のメダル獲得となり大きな感動を与え成功裡に終了することができました。

そんな中、秋田県出身の菅総理大臣は「コロナ対策が後手々に回った」「(ものごとに対する)説明が不十分だ」との批判を浴び退陣を余儀なくされ、10月には岸田内閣が発足しました。1月には米国でもトランプ大統領からバイデン大統領へと政権が移り、新たな日米関係のスタートの年となりました。

世界的には2月にミャンマーで軍事クーデターがあり、8月には米軍がアフガニスタンから撤退しタリバン政権となりました。

香港では中国の民主化への弾圧が強化され、民主的なリンゴ日報(一時50万部を超えていた新聞)が廃刊に追い込まれ、香港議会選挙でも民主化を目指す議員が締め出され、完全に「一国二制度」は崩壊。中国共産党創建100年を迎え、習近平国家主席の権限が拡大され、台湾への圧力強化・新疆ウイグル自治区の人々に対する人権の侵害や弾圧など西側諸国から強い批判の声が上がっており、今年2月開催予定の北京五輪に要人派遣を見送る動きが広まっております。

スポーツの世界では明るいニュースが盛り沢山に聞かれました。

米国大リーグの大谷翔平選手の「二刀流」での活躍がアリーグ最優秀選手(MVP)に選ばれ、その活躍には目を見張るものがありました。ゴルフでは松山英樹選手が四大メジャー大会のマスターズ・トーナメントで日本男子では初めての優勝を飾り、また、全米女子オープンで笹生優花選手が19歳11カ月で、大会最年少タイ記録で初優勝しました。大相撲では病気と怪我で序二段まで番付を下げた照ノ富士がその困難を見事に乗り越えて横綱昇進を果たしました。

将棋では藤井聡太さんが19歳3カ月の史上最年少で4冠を獲得するなど若い世代の活躍が特に目立った年でもありました。

さて今年は「寅年」。寅年生まれの人々の性格は正義感が強くチャレンジ精神が旺盛とされています。また、「虎の子」という言葉は大切なものという意味を持っていますが、この「虎の子」をしっかりと掴み取る年としたいと思います。



「人間圧」がリーダーの条件

元慶應義塾大学 名誉教授 村田昭治

ゆとり経営

輝いて生き生きしている会社を観ると、経営者はじめ全員が“わが社はみんなの会社”という意識をもっている。そして、社会正義に基づいているか、顧客中心主義か、あるいは打算と計算、取引だけで生きているのではないかと、いつも自分たちを揺さぶって、良き方向へ脱皮する力を持っているように思う。

その上で、ひじょうにシリアス(真面目)でファン(おもしろい)な個性の人を大切にしているようだ。別の言葉でいえば、経営の意義と個性を感じる会社がいいのではないだろうか。

またわたしは経営者、リーダーは、知識をたくさんもっているよりも、基礎学力、基礎体力がしっかりしていて、基礎教養を身につけて、時代の変化を感じる人がふさわしいのではないかと思っている。わたしの独特の表現をすれば、それは“人間の圧”、“知識の圧”、“温かさの圧”のある人ということになろう。

まとめていえば“人間圧”のある人であり、哲学があり、ビジョンがあり、夢があり、知恵や考え方、理念を濁らせない素敵な人物像をもっていることが、基本ではないだろうか。

ゆとりのある経営とのろい経営とは違う。顧客本位の価値提案と一人よがりの提案とは異なる。この違いの分かっている経営者がどれだけいるのか。内心忸怩たる念の人は、かならずいるのではなかろうか。

では、人間圧をつくるにはどうしたらいいか。ふだんの学ぶ力を強くすること、人の話を耳先でなく脳細胞で聴くこと、口先でしゃべらず言葉を選び、考え方に高い水準を保つ努力をすることが必要であろう。

それが人を引きつけ、新緑のように爽やかに計りしれない魅力を感じさせるのだ。

近年、几帳面で誠実な人が減ったようだ。筆無精は怠け者ということだし、几帳面さが無いのは一事が万事そうであると思われるし、誠実さを欠くのは、計算づくで人とつき合っていることの表れではないか。そうした取引人間を踏み越えていく経営が求められていると思う。

いま客が群がり、慕ってくる企業には、そんな人間圧の魅力をもった経営者の姿を観ることができる。

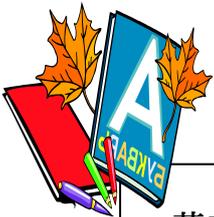
【「人を惹きつける経営」より】



夏目 漱石 (小説家・俳人・英文学者)

- 1867年1月5日(慶応3年) 江戸牛込馬場下横町に父・夏目小兵衛直克、母千枝の五男として生まれる。夏目家は代々名主であった。
- 1886年(明治19年) 第一高等中学校予科入学。
- 1890年(明治23年) 帝国大学(のちの東京帝国大学)文科大学英文学科入学。
- 1893年(明治26年) 帝国大学卒業。大学院入学。高等師範学校の英語教師となる。
- 1900年(明治33年) 5月 イギリス留学(途上パリ万国博覧会を訪問)
- 1903年(明治36年) 第一高等学校・東京帝国大学講師兼任。
- 1905年(明治38年) 「吾輩は猫である」を発表。
- 1906年(明治39年) 「坊っちゃん」を発表。
- 1907年(明治40年) 一切の教職を辞して、朝日新聞社に入社。
「虞美人草」を朝日新聞に連載。
- 1911年(明治44年) 文部省からの文学博士号授与を辞退。
- 1913年(大正2年) ノイローゼ・胃潰瘍再発。
- 1914年・1915年 朝日新聞に「ころ」・「道草」連載。
- 1916年12月9日 胃潰瘍により死去。享年49歳
- 1984年11月 千円札に肖像が採用される。
- 【栄典】
- 1899年10月 従六位

オススメの BOOK



「嫌われた監督」

著者 鈴木 忠平 出版社 文藝春秋

著者は日刊スポーツ新聞社で16年間プロ野球担当記者に従事してきた。本書は落合博満監督が中日ドラゴンズ監督に就任してから退任までの、生々しい一球団の記録だ。

落合監督のイメージは「三冠王」と「オレ流」に凝縮されるが、本書を読み進んでいくうちに、プロとして勝ちにこだわり、多くを語らないが選手たちの一挙手一投足を見つめ、チームの強みと弱点を「オレ流」で分析し、絶対に妥協しない信念に基づいてチーム作りをしてきたことがよく理解できる。打者の落合からチーム作りの落合、妥協なき戦いのドラマである。

職場の教養 1月号から2話ご紹介します



今年^{みずのえとら}は 壬寅 (伝承された文化を探ってみましょう)

今年の干支は「寅」です。多くの日本人は、自身の干支を即答できるでしょう。それほど干支は日本人にとって、馴染み深いものといえます。

干支は中国から伝わったとされています。日本では十二種の動物「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」を干支と呼んでいます。

干支の原型は「干支^{かんし}」です。十干十二支の「干」と「支」を組み合わせたものを干支と呼ぶようになったといわれています。

十干は「甲^{こう}・乙^{おつ}・丙^{へい}・丁^{てい}・戊^ぼ・己^き・庚^{こう}・辛^{しん}・壬^{じん}・癸^き」からなり、これに陰と陽を当てはめるようになりました。

この干支は一年ごとに順送りしていくため、「甲子^{きのえね}」から始まり「癸亥^{みずのとい}」まで、六十年で一巡することになります。これを還暦としています。

また、干支は暦だけでなく、「正午」「子午線」「甲乙つけ難い」など、時刻や方位、物事の順序などにも用いられ、現在でも多くの事柄に使われています。

年が改まった本日、干支について調べてみてはいかがでしょうか。

庶民の夢 (朗らかに働きましょう)

元日の夜から二日の朝にかけて見る夢を「初夢」といいます。

縁起の良い初夢の内容として広く知られている「一富士、二鷹、三なすび」は、江戸時代に庶民の間で広がったとされ、これらが夢に現れると運気が上昇するといわれています。夢で運気を占う背景には、平和で豊かに暮らしたいという、庶民の切なる願いが込められているのでしょう。

諸説ありますが、「富士」は、富士を〈無事〉とかけ、無事に過ごせる、「鷹」は、素早く獲物を捕まえる姿から、チャンスを掴める、「なすび」は、財や子孫繁栄を成す野菜だからという説が有名です。

「経営の神様」といわれたパナソニックの創業者・松下幸之助は、運や運気を研究し、運気上昇の鍵は、「素直さ」にあると講演の中で話しています。

運気を上昇させるには、常に朗らかで、仲良く、喜んで働くことに取り組むことが大切でしょう。

素直さを追求して運気を上昇させ、平和で豊かな人生を掴みましょう。

【編集後記】

新年を迎えると、毎年のように「今年こそは」と強い決意のようなものを胸に抱く。

それは日時の経過とともに薄れてしまうことが毎年のように繰り返される。

それでも、新たな気持ちで大きな「志を持ち」「夢を持つ」ことは大切なことではないかと思う。

今年も新たな気持ちで「今年こそは」と懲りることなく胸に抱き、その思いを少しでも長期間持続させ挑戦してみたいと思う。